ラックマウント サーバー管理

- ラックマウント サーバー管理 （2 ページ）
- ラックエンクロージャ サーバー管理 （2 ページ）
- ラックマウント サーバーの削除および解放に関するガイドライン （3 ページ）
- 予期しないサーバー電力変更を回避するための推奨事項 （4 ページ）
- ラックマウント サーバーのブート （5 ページ）
- ラックマウント サーバーのシャットダウン （6 ページ）
- ラックマウント サーバーの出荷時のデフォルト設定へのリセット, on page 7
- 永続メモリ スクラブの実行 （9 ページ）
- ラックマウント サーバーの電源再投入 （9 ページ）
- ラックマウント サーバーのハード リセットの実行 （10 ページ）
- ラックマウント サーバーの認識 （11 ページ）
- ラックマウント サーバーの解放 （11 ページ）
- ラックマウント サーバの再稼動 （12 ページ）
- ラックマウント サーバーの番号付け直し （13 ページ）
- ラックマウント サーバーの削除 （15 ページ）
- ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源投入 （15 ページ）
- ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源切断 （16 ページ）
- ラックマウント サーバーの CMOS のリセット （17 ページ）
- ラックマウント サーバーの CIMC のリセット （17 ページ）
- ラックマウント サーバーの TPM のクリア （18 ページ）
- ラックマウント サーバーの BIOS パスワードのリセット （19 ページ）
- ラックマウント サーバーのステータスの表示 （19 ページ）
- ラックマウント サーバーからの NMI の発行, on page 20
- Power Transition Log の表示 （21 ページ）
- ラック エンクロージャ スロットの統計情報の表示 （21 ページ）

ラックマウント サーバー管理

ラックマウント サーバー管理

Cisco UCS Manager を使用して、Cisco UCS ドメインに統合されているすべてのラックマウント サーバーを管理およびモニターすることができます。電力制限を除くすべての管理およびモニターリング機能がラックマウント サーバーでサポートされます。電源状態の変更など一部のラックマウント サーバー管理タスクは、サーバーとサービス プロファイルの両方から行うことができます。残りの管理タスクは、サーバー上でのみ実行できます。

Cisco UCS Manager は、検出された各ラックマウント サーバーに関する情報、エラー、および障害を提供します。

ヒント　サポートされる Cisco UCS ラックマウント サーバーと Cisco UCS Manager との統合方法については、ご使用の Cisco UCS Manager のリリースに応じた Cisco UCS C シリーズ サーバー統合ガイドまたは Cisco UCS S シリーズ サーバー統合ガイドを参照してください。

ラックエンクロージャ サーバー管理

このガイドで特に明記されていない限り、リリース 4.0(1a) 以降の Cisco UCS Manager では Cisco UCS C125 M5 サーバ の既存の機能すべてがサポートされます。

Cisco UCS C125 M5 サーバは Cisco UCS C4200 シリーズ ラック サーバー シャーシに格納されます。各 Cisco UCS C4200 シリーズ ラック サーバー シャーシは、最大で 4 つの Cisco UCS C125 M5 サーバ ノードをサポートします。Cisco UCS C125 M5 サーバ ノードを管理するため、Cisco UCS Manager の CLI で **rack-enclosure** オブジェクトがサポートされています。

CLI インターフェイスを使用して、ラック エンクロージャのスコープを指定することができます。次に例を示します。

```
UCS-A # scope rack-enclosure 1
```

rack-enclosure には次の範囲を指定できます。

- fan-module
- psu
- slot

fan-module と psu を指定した場合は、他のラック サーバーと同様に管理できます。slot については「ラック エンクロージャ スロットの統計情報の表示 （21 ページ）」を参照してください。

また、**show** コマンドを使用すると、**rack-enclosure** に使用可能な以下の値を確認できます。

- detail

- event
- 拡張
- fan-module
- fault
- fsm
- psu
- slot
- stats

ラックマウントサーバーの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使ってラックマウント サーバーを削除するか解放するかを決定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

ラックマウント サーバーの解放

解放は、ラックマウントサーバーが物理的に存在し接続されているが、一時的に設定から削除する必要がある場合に実行します。解放されたラックマウントサーバーは最終的に再稼働することが予測されるので、サーバーの情報部分は、将来の使用に備え、Cisco UCS Managerによって保持されます。

ラックマウント サーバーの削除

削除は、ラックマウント サーバーをファブリック エクステンダから接続解除して、システムから物理的に削除する（取り外す）場合に実行します。ラックマウントサーバーが物理的に存在し、ファブリック エクステンダに接続しているときは、Cisco UCS Manager から削除できません。ラックマウント サーバーの接続を解除した後、その設定を Cisco UCS Manager から削除できます。

削除時、管理インターフェイスは接続解除され、すべてのエントリがデータベースから削除されます。サーバーは検出時に割り当てられたすべてのサーバープールから自動的に削除されます。

（注） 自動的に削除されるのは、検出時に自動的にサーバープールに追加されたサーバーのみです。サーバー プールに手動で追加したサーバーは手動で削除する必要があります。

削除したラックマウントサーバーを再び設定に追加する場合は、再接続して再度検出する必要があります。Cisco UCS Managerに再導入したサーバーは新規サーバーとみなされ、詳細なディ

スカバリ プロセスが実施されます。このため、Cisco UCS Manager によって以前とは異なる新しい ID がサーバーに割り当てられることがあります。

予期しないサーバー電力変更を回避するための推奨事項

サーバーがサービス プロファイルに関連付けられていない場合は、サーバーの物理的な [Power] または [Reset] ボタンなど、サーバーの電源状態を変更するために使用可能な手段をすべて使用できます。

サーバーがサービス プロファイルに関連付けられているか、サービス プロファイルに割り当てられている場合は、サーバーの電源状態の変更は次の方法でのみ行う必要があります。

- Cisco UCS Manager GUI で、サーバーに関連付けられたサーバーまたはサービス プロファイルの [General] タブに移動し、[Actions] 領域で [Boot Server] または [Shutdown Server] を選択します。
- Cisco UCS Manager CLI で、サーバー、またはサーバーに関連付けられたサービス プロファイルに対して **power up** または **power down** コマンドを使用します。

重要 電源がオフになっている関連サーバーには、次のオプションのいずれも使用しないでください。

- GUI の [Reset]
- **cycle cycle-immediate** または CLI の **reset hard-reset-immediate**
- サーバーの物理的な [Power] または [Reset] ボタン

現在電源がオフになっているサーバーに対して、リセットまたはサイクルを実施するか、サーバーの物理的な [Power] ボタンを使用すると、サーバーの実際の電力状態がサービス プロファイルで必要とされる電源状態の設定と同期しなくなる可能性があります。サーバーと Cisco UCS Manager 間の通信が中断したり、サービス プロファイルの設定が変更されると、Cisco UCS Manager によって、必要とされる電源の状態がサービス プロファイルからサーバーに適用される場合があり、この結果予期しない電力変化が発生する可能性があります。

電源の同期に関する問題は、次に示すように予期しないサーバーの再起動につながる可能性があります。

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバーの電源状態	通信が中断された後のサーバーの電源状態
アップ	電源オフ	[電源オン（Powered On）]

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバーの電源状態	通信が中断された後のサーバーの電源状態
ダウン	電源オン	電源オン （注） 実行中のサーバーは、サービスプロファイルに必要とされる電源状態に関係なくシャットダウンされません。

ラックマウント サーバーのブート

始める前に

ラックマウント サーバーとサービス プロファイルを関連付けます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope org** *org-name*	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # **scope service-profile** *profile-name*	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # **power up**	サービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをブートし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power up
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ラックマウント サーバーのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティング システムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフル シャットダウン シーケンスがトリガーされます。

始める前に

ラックマウント サーバーとサービス プロファイルを関連付けます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope org** *org-name*	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、*org-name* に **/** と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # **scope service-profile** *profile-name*	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # **power down**	サービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをシャットダウンし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ラックマウントサーバーの出荷時のデフォルト設定へのリセット

ラックマウント サーバーを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージ ドライブおよびflexflash ドライブなどのストレージに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。

Important ストレージ デバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバーを出荷時のデフォルト設定にリセットする必要がある場合には、次の手順を実行します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウントサーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **reset factory-default** [**delete-flexflash-storage** | **delete-storage** [**create-initial-storage-volumes**]]	サーバー設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンド オプションを使用して行います。 • **factory-default**：ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットします。 • **delete-flexflash-storage**：サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します。 • **delete-storage**：サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します。 • **create-initial-storage-volumes**：サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、すべてのディスクを初期状態に設定します。 **Important**

	Command or Action	Purpose
		ストレージ プロファイルを使用する場合は、**create-initial-storage-volumes** コマンド オプションを使用しないようにしてください。ストレージ プロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。
ステップ 3	UCS-A /server # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-flexflash-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /server* # commit-buffer
```

永続メモリ スクラブの実行

Cisco UCS Manager では、次の方法のいずれかを使用して永続メモリをスクラブできます。

- サービス プロファイルおよびスクラブ ポリシーと選択した永続メモリ スクラブとの関連付け解除
- 選択した永続メモリ スクラブでサーバを工場出荷時のデフォルトにリセットする
- ゴールの削除

ラックマウント サーバーの電源再投入

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **cycle** {**cycle-immediate** | **cycle-wait**}	ラックマウント サーバーの電源を再投入します。 ラックマウント サーバーの電源再投入をただちに開始するには、**cycle-immediate** キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、**cycle-wait** キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A#  scope server 2
UCS-A /server # cycle cycle-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバーのハード リセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセット ライン上にパルスが送信されます。オペレーティング システムのグレースフル シャットダウンを選択することができます。オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンがサポートされていない場合、サーバ電源の再投入が行われます。サーバをリセットする前に Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションの場合、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。

（注） 電源切断状態からサーバをブートする場合は、**[リセット（Reset）]** を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、**[キャンセル（Cancel）]** をクリックし、**[ブート サーバ（Boot Server）]** アクションを選択します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **reset** {**hard-reset-immediate** | **hard-reset-wait**}	ラックマウント サーバーのハード リセットを実行します。 ラックマウント サーバーのハード リセットをただちに開始するには、**hard-reset-immediate** キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後にハード リセットが開始されるようスケジュールするには、**hard-reset-wait** キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /server # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 のハード リセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A#  scope server 2
UCS-A /server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバーの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出するには、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスカバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **acknowledge server** *server-num*	指定されたラックマウント サーバーを認識します。
ステップ 2	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ラックマウント サーバー 2 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A#  acknowledge server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

ラックマウント サーバーの解放

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **decommission server** *server-num*	指定されたラックマウント サーバーを解放します。
ステップ 2	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ラックマウント サーバー 2 を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

次のタスク

ラックマウント サーバーの使用停止後、サーバーの再稼働を開始するには数分待機する必要があります。

詳細については、「ラックマウント サーバの再稼動 （12 ページ）」を参照してください。

ラックマウント サーバの再稼動

始める前に

ラックマウント サーバーを使用停止後に再稼働する場合、サーバーの再稼働を開始するまで数分待機する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **recommission server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーを再稼働します。
ステップ 2	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ラックマウント サーバー 2 を再稼働し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# recommission server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

ラックマウント サーバーの番号付け直し

始める前に

サーバ間で ID を交換する場合は、まず両方のサーバを解放し、サーバ解放 FSM が完了するのを待ってから、番号の再設定手順に進みます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **show server inventory**	サーバーに関する情報を表示します。
ステップ 2	サーバー インベントリに以下が含まれていないことを確認してください。	• 番号を付け直すラックマウント サーバー • 使用する番号を持つラックマウント サーバー これらのラックマウント サーバーのいずれかがサーバー インベントリにリストされている場合は、これらのサーバーをデコミッションします。続行前に、デコミッション FSM が完了し、ラックマウント サーバーがサーバー インベントリにリストされなくなるまで待機する必要があります。これには数分かかる場合があります。 どのサーバーがデコミッションされたかを確認するには、**show server decommissioned** コマンドを発行します。
ステップ 3	UCS-A# **recommission server** *vendor-name model-name serial-numnew-id*	指定したラックマウント サーバーをリコミッションし、番号を付け直します。
ステップ 4	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ID 2 のラックマウント サーバーをデコミッションし、ID を 3 に変更し、そのサーバーをリコミッションし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# show server inventory
```

```
Server  Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
 Ackd Cores
------- ------------ ------------ -------------------- ---------------- ----------------
 ----------
1/1     UCSB-B200-M4 V01          FCH1532718P          Equipped         131072
  16
1/2     UCSB-B200-M4 V01          FCH153271DF          Equipped         131072
  16
1/3     UCSB-B200-M4 V01          FCH153271DL          Equipped         114688
  16
1/4     UCSB-B200-M4 V01                               Empty
1/5                                                    Empty
1/6                                                    Empty
1/7     N20-B6730-1  V01          JAF1432CFDH          Equipped         65536
  16
1/8                                                    Empty
1       R200-1120402W V01          QCI1414A02J          N/A              49152
  12
2       R210-2121605W V01          QCI1442AHFX          N/A              24576
  8
4       UCSC-BSE-SFF-C200 V01      QCI1514A0J7          N/A              8192
  8

UCS-A# decommission server 2
UCS-A*# commit-buffer
UCS-A# show server decommissioned

Vendor            Model         Serial (SN) Server
----------------- ----------    ----------- ------
Cisco Systems Inc R210-2121605W QCI1442AHFX 2

UCS-A# recommission chassis "Cisco Systems Inc" "R210-2121605W" QCI1442AHFX 3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A # show server inventory

Server  Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
 Ackd Cores
------- ------------ ------------ -------------------- ---------------- ----------------
 ----------
1/1     UCSB-B200-M4 V01          FCH1532718P          Equipped         131072
  16
1/2     UCSB-B200-M4 V01          FCH153271DF          Equipped         131072
  16
1/3     UCSB-B200-M4 V01          FCH153271DL          Equipped         114688
  16
1/4     UCSB-B200-M4 V01                               Empty
1/5                                                    Empty
1/6                                                    Empty
1/7     N20-B6730-1  V01          JAF1432CFDH          Equipped         65536
  16
1/8                                                    Empty
1       R200-1120402W V01          QCI1414A02J          N/A              49152
  12
3       R210-2121605W V01          QCI1442AHFX          N/A              24576
  8
4       UCSC-BSE-SFF-C200 V01      QCI1514A0J7          N/A              8192
  8
```

ラックマウント サーバーの削除

始める前に

次の手順を実行する前に、ラックマウント サーバとファブリック エクステンダを接続している CIMC LOM ケーブルを物理的に外します。ハイ アベイラビリティ構成の場合は、両方のケーブルを外します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **remove server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーを削除します。
ステップ 2	UCS-A# **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 4 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A#  remove server 4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

次のタスク

ラックマウント サーバを物理的に再接続する場合、Cisco UCS Managerに再検出させるために、サーバの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、「ラックマウント サーバーの認識 （11 ページ）」を参照してください。

ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源投入

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /server # **enable locator-led**	ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源を投入します。
ステップ 3	UCS-A /server # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 のロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # enable  locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源切断

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウントサーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **disable locator-led**	ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源を切断します。
ステップ 3	UCS-A /server # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # disable  locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバーの CMOS のリセット

サーバのトラブルシューティングに CMOS のリセットが必要になることがあります。CMOS のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	ラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **reset-cmos**	ラックマウント サーバーの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /server # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 の CMOS をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset-cmos
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバーの CIMC のリセット

ファームウェアで、サーバのトラブルシューティングに CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットすると、CIMC はブレード サーバの管理コントローラを再起動します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	指定したラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # **scope CIMC**	サーバー CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /server/CIMC # **reset**	ラックマウント サーバーの CIMC をリセットします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /server/CIMC # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバー 2 の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # scope CIMC
UCS-A /server/cimc # reset
UCS-A /server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /server/cimc #
```

ラックマウント サーバーの TPM のクリア

TPM のサポートが含まれている Cisco UCS M4 ブレード サーバーおよびラックマウント サーバーでのみ、TPM をクリアできます。

⚠

注意 TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

始める前に

TPM が有効である必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	ラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /server # **scope tpm** *tpm-ID*	指定された TPM の org TPM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A# /server/tpm # **set adminaction clear-config**	TPM のクリアを指定します。
ステップ 4	UCS-A# /server/tpm # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバーの TPM をクリアする方法の例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /server # scope tpm 1
UCS-A# /server/tpm # set adminaction clear-config
UCS-A# /server/tpm* # commit-buffer
```

ラックマウント サーバーの BIOS パスワードのリセット

このオプションを使用すると、F2 BIOS 構成プロンプトを使用せずに BIOS パスワードをリセットできます。BIOS パスワードのリセットは、通常のサーバー メンテナンスには含まれません。BIOS パスワードのリセット後、サーバーはすぐに再起動され、新しい BIOS パスワードが更新されます。

手順

ステップ 1 UCS-A# **scope server** *server-num*

指定したシャーシでシャーシ サーバー モードを開始します。

ステップ 2 UCS-A /chassis/server # **reset-bios-password**

ラックマウント サーバーの BIOS パスワードをリセットします。

ステップ 3 UCS-A /chassis/server # **commit-buffer**

トランザクションをシステムの設定にコミットします。

ラックマウント サーバーのステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **show server status**	Cisco UCS ドメイン内にあるすべてのサーバーのステータスを表示します。

例

次に、Cisco UCS ドメイン 内にあるすべてのサーバーのステータスを表示する例を示します。番号が 1 および 2 のサーバーは、ラックマウント サーバーであるため、表にスロットが示されていません。

```
Server Slot  Status    Availability  Overall Status  Discovery
-------------------------------------------------------------------
1/1          Equipped  Unavailable   Ok              Complete
1/2          Equipped  Unavailable   Ok              Complete
1/3          Equipped  Unavailable   Ok              Complete
1/4          Empty     Unavailable   Ok              Complete
1/5          Equipped  Unavailable   Ok              Complete
1/6          Equipped  Unavailable   Ok              Complete
1/7          Empty     Unavailable   Ok              Complete
1/8          Empty     Unavailable   Ok              Complete
1            Equipped  Unavailable   Ok              Complete
2            Equipped  Unavailable   Ok              Complete
```

ラックマウント サーバーからの NMI の発行

システムの無応答状態が続き、Cisco UCS Managerによって IMC から BIOS またはオペレーティング システムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合には、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティング システム応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# **scope server** [*chassis-num*/*server-num* | *dynamic-uuid*]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # **diagnostic-interrupt**	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、シャーシ 2 のサーバー 4 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

Power Transition Log の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope server** *server-num*	ラックマウント サーバーでサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /chassis/server # **show power-transition-log**	指定したサーバーの computeRebootLog インスタンスを表示します。

例

次に、サーバー 3 の Power Transition Log を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /chassis/server # show power-transition-log

Last 5 server reboots (Newest first):

Pwr Change Source               Last pwr transition timestamp
------------------------------  ----------------------------
UCSM TURNUP                     2016-10-28T09:35:04.498
HOST PWR TRANSITION             2016-10-27T17:06:56.157
UCSM TURNUP                     2016-10-27T17:06:24.734
UCSM ASSOCIATE                  2016-10-27T17:06:24.068
UCSM SERVER DISCOVER           2016-10-27T16:56:56.153
```

ラック エンクロージャ スロットの統計情報の表示

C125 M5 サーバが格納されるラック エンクロージャのサーバー スロットの統計情報を確認できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope rack-enclosure** *rack-enclosure -num*	ラックエンクロージャに入ります。
ステップ 2	UCS-A# /rack-enclosure # **show slot**	スロットの統計情報を表示します。
ステップ 3	UCS-A# /rack-enclosure # **scope slot** *slot_ID*	スロットに入ります。
ステップ 4	UCS-A# /rack-enclosure/slot # **show detail**	次の統計情報が表示されます。

	コマンドまたはアクション	目的
		• Id • スロット タイプ • Presence State • Server ID • Server DN • Current Task

例

次の例では、エンクロージャのスロットの統計情報および各スロットの統計情報を表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope rack-enclosure 1
UCS-A /rack-enclosure # show slot
UCS-A /rack-enclosure # show slot

Slot:
    Id         Presence State
    ---------- --------------
             1 Equipped
             2 Empty
             3 Equipped
             4 Empty
UCS-A /rack-enclosure # scope slot 1
UCS-A /rack-enclosure/slot # show detail

Slot:
    Id: 1
    Slot Type: Compute
    Presence State: Equipped
    Server ID: 4
    Server DN: sys/rack-unit-4
    Current Task:
UCS-A /rack-enclosure/slot #
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。